外国語を用いたコミュニケーションに楽しさを感じる児童の育成
～他市町村の児童とのオンライン交流を通して～

新発田市立豊浦小学校
宮島　淳人（平成 30 年度）

１．私の主張

児童が外国語でのコミュニケーションに楽しさを感じ、意欲的に表現するためには、「誰に・何のために伝えるのか」という明確な目的・場面・状況を設定することが不可欠である。 従来のクラスメイトや ALT との慣れ親しんだ環境では、「正しく話さなければならない」という不安や照れが生じやすく、実戦的な伝え合いの深まりに限界があった。本実践では、普段関わりのない他市町村（胎内市）の児童とのオンライン交流を導入した。異なる環境にいる相手に対して「新発田市の魅力を伝え、来てもらいたい」という切実な相手意識・目的意識をもつことで、主体的に思いを伝え合う姿の実現を目指した。

２．実践の概要

光村図書『Here We Go! 5』Unit 8「This is my town.」において、「「新発田市に行きたい！」と思ってもらえるように、胎内市の小学生に新発田市の魅力を伝えよう！」という目標を設定し、全 9 時間の単元を構築した。指導の工夫として、Google Meet を用いて ALT へ 2 段階のプレ発表を行った点である。声量や画面の見づらさ等の課題を自覚させた上で、内容の拡充や原稿の暗記だけでなく、相手の好みを聞く質問や自らの感想を付け加えるなど、双方のやり取りを意識した改善と練習を行った。

３．成果と課題

成果として、アンケートにおいて 8 割以上の児童が取り組みに肯定的な回答を示した。「ミスしても大丈夫」「新発田の良さを伝えたい」という姿勢が見られ、明確な相手と目的が存在することで、正しさへの不安を超えて意欲的に伝える楽しさや達成感を味わうことができた。一方で課題として、グループ作業における貢献度の偏りに対する多角的な評価方法の確立、相手に不快感を与えない対話マナーの徹底、そして交流の目的に応じたスライド表示と対面画面の使い分けなどオンライン運用の工夫が挙げられる。